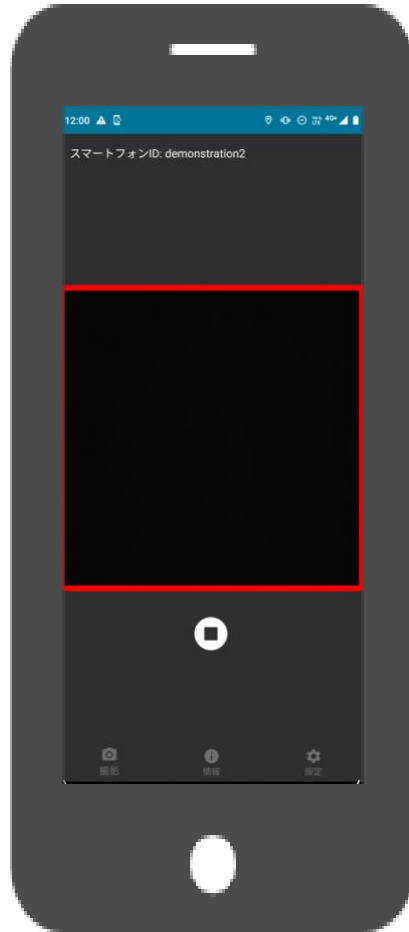


ユーザー向け
重要書類



RoadManager 損傷検知スマートフォン 設置・操作マニュアル（新アプリ版）

ver.202303

株式会社 アーバンエックステクノロジーズ

更新履歴

項番	更新日	版数	変更内容
1	2023/2/28	0.5	先行リリース版作成
2	2023/3/29	1.0	初版作成
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

はじめに

- 本書をよくお読みのうえ、本製品を正しく使用してください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。
- 本書の内容については将来予告なしに変更する場合があります。
- 本書で使用している本製品の写真やイラストは実際の製品とは異なる場合があります。また、本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら当社までお問い合わせください。
- 本書の著作権は株式会社アーバンエックステクノロジーズが所有しております。本書を無断で複製したり、複製物を無断で配布したりすることは著作権法により禁じられています。
- 本製品の不適当な使用による万一の損害や、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関しても、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

本書について

本手順書は、「RoadManager 損傷検知（以下、RM 損傷検知）」のアプリ（以下、RM 損傷検知アプリ）の操作方法を記載したマニュアルです。

本書の表記について

警告

誤った使用をした場合、多大な損失を及ぼす内容を示します。

注意

適切に使用するために、注意すべき内容を示します。

禁止

禁止事項（やってはいけないこと）を示します。

注意

注意事項を示します。

補足

補足情報を示します。

商標および登録商標について

掲載している会社名、製品名等は、一般に各社の商標又は登録商標です。

なお、® (R) ™ TM 等は、明記していない場合があります。

目次

1.	RM 損傷検知の基本的な機能と導入の事前準備	6
1.1.	RM 損傷検知の基本的な機能	6
1.2.	RM 損傷検知使用までの流れ	7
1.3.	デバイス（スマートフォン）の準備	8
1.4.	スマートフォン設置車両の事前確認	10
1.4.1.	スマートフォンを設置できる場所はあるか？	10
1.4.2.	スマートフォンへの電源供給元があるか？	12
1.5.	スマートフォン設置のための機材の準備	13
2.	スマートフォン、RM 損傷検知アプリのセットアップの流れ	15
3.	RM 損傷検知アプリのインストール・初期設定	16
3.1.	RM 損傷検知アプリのインストール	17
3.2.	RM 損傷検知アプリの初期設定	18
3.2.1.	初期設定作業の大まかな流れ	18
3.2.2.	権限の許可	19
3.2.3.	ユーザーログイン	20
3.2.4.	連続撮影機能設定（連続撮影機能オプションを申し込んだ場合）	22
4.	スマートフォンの車両への設置	24
4.1.	設置の大まかな流れ	24
4.2.	機材の確認	25
4.3.	スマートフォンホルダーの設置	26
4.3.1.	ダッシュボード上に設置する場合	26
4.3.2.	フロントガラスに設置する場合	29
4.4.	充電ケーブルの配線、接続	32
4.5.	最終確認、画角の調整	34
4.5.1.	良い画角の例	34
4.5.2.	調整したほうがよい画角の例	34
5.	RM 損傷検知アプリの運用	35
5.1.	RM 損傷検知アプリの立ち上げ・日々の運用開始	35
5.2.	日々の運用終了	36

6. RM 損傷検知アプリのアップデート	38
7. 「おかしいな」と思ったら	40
8. よくある質問	41
9. MEMO.....	42

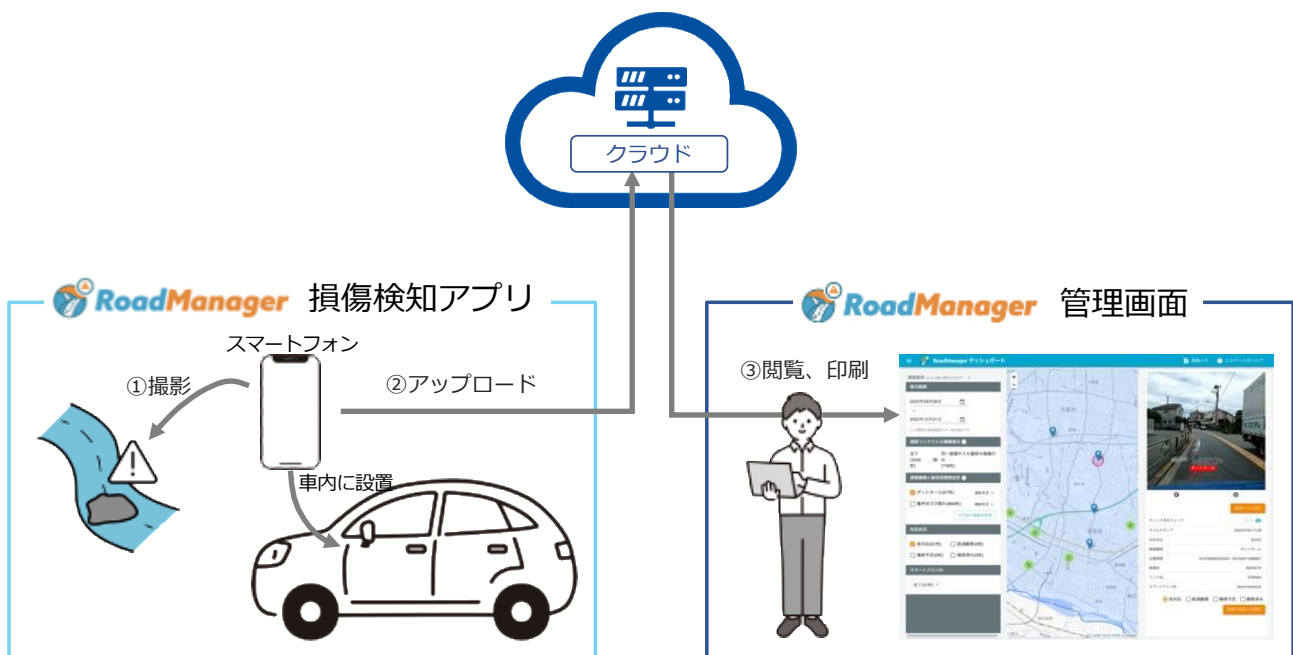
1. RM 損傷検知の基本的な機能と導入の事前準備

1.1. RM 損傷検知の基本的な機能

道路損傷検知サービス「RoadManager」は、スマートフォンやドライブレコーダーを用いた道路の総合管理ツールです。

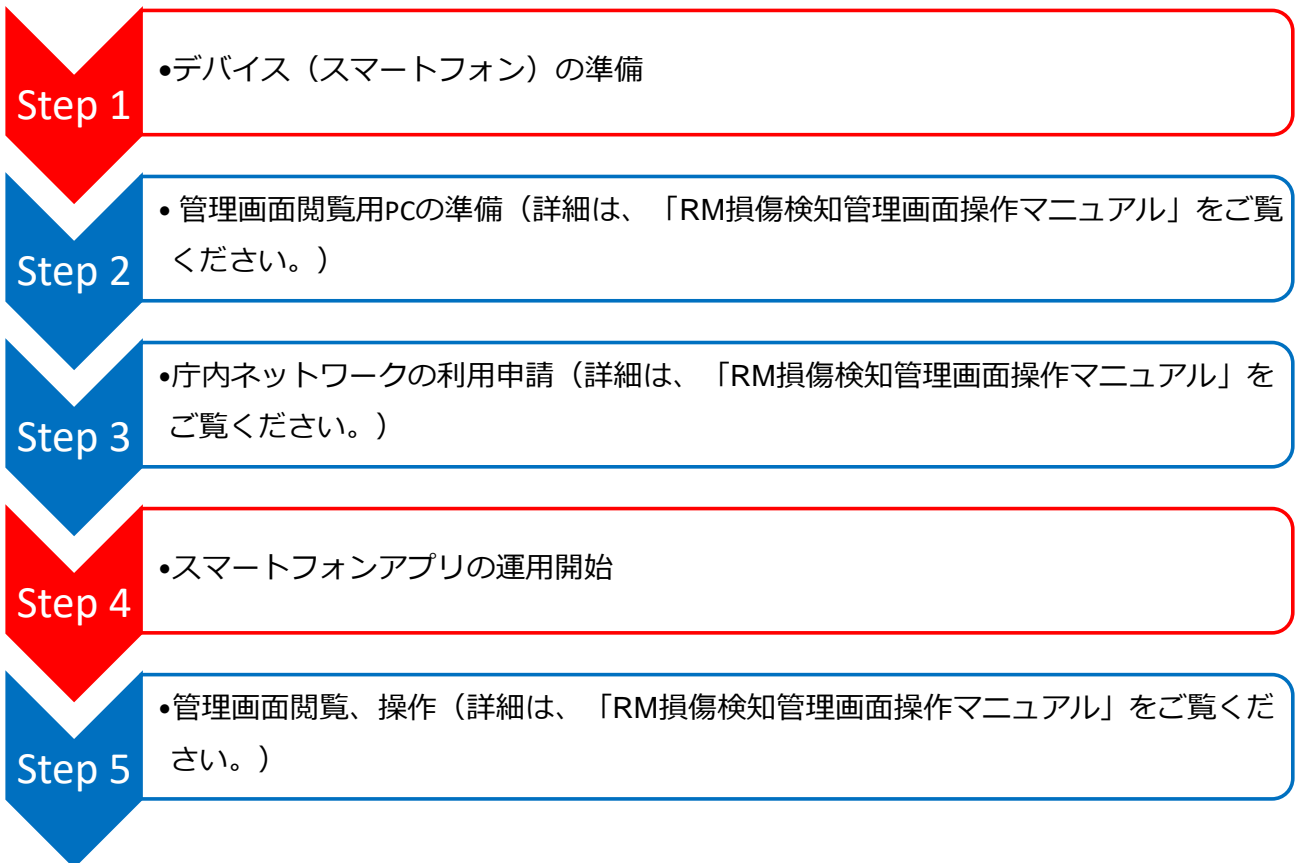
RM 損傷検知は、車内に設置したスマートフォンやドライブレコーダーから得られる画像から路面の損傷箇所を AI（人工知能）で自動検出、判別し、管理画面にて地図や損傷の詳細な情報を表示することができるサービスです。

RM 損傷検知の大まかなシステム構成は、以下のとおりです。



1.2.RM 損傷検知使用までの流れ

RM 損傷検知は、損傷を検知するためのデバイス（スマートフォン）と管理画面を閲覧するための PC の準備が必要となります。サービス利用開始までに必要な準備の流れを下記に示します。



本書では、Step 1, 4 について記載します。管理画面閲覧用の PC 準備、損傷を閲覧するための管理画面の操作方法については、下記ドキュメントをご覧ください。

- RM 損傷検知管理画面操作マニュアル

1.3.デバイス（スマートフォン）の準備

RM 損傷検知は、スマートフォンにインストールされた専用アプリで損傷を検知します。そのため、本サービスに適合したスマートフォンを事前に用意する必要があります。

RM 損傷検知に適したスマートフォンの最低動作環境の目安は、以下のとおりです。

項番	項目	最低動作環境
1	OS	Android バージョン 11 以上
2	カメラ	背面カメラが備わっていること
3	詳細スペック	モトローラ社製スマートフォン moto g52j 5G と同等以上のスペックを有すること moto g52j 5G メーカーサイト： https://store.motorola.co.jp/item/MOTO_G52J_5G.html

- ❶ スマートフォンを当社よりレンタルする場合には、ご自身でスマートフォンを用意する必要はありません。

またアプリ動作中、スマートフォンとクラウドのサーバーは常に通信を行い、損傷検知の画像や情報をやり取りします。そのため、モバイル回線通信用の契約、SIM カードが必要となります。最低限必要なデータ通信容量や通信速度は以下のとおりです。

項番	項目	目安
1	データ通信容量	連続撮影機能を利用する場合 : 30GB/月~50GB/月 以上 連続撮影機能を利用しない場合 : 5GB/月 以上 ※いずれも稼働時間が増えるほど、必要なデータ通信容量が増えます。また、連続撮影機能を利用しない場合であっても、損傷検知数によっては膨大な通信が発生する可能性があります。
2	データ通信速度	当社貸与品で取り扱いのあるデータ通信プランと同等のもの ● 上り最大 : 75Mbps ● 下り最大 : 988Mbps
3	データ通信速度 (制限時)	当社貸与品で取り扱いのあるデータ通信プランと同等のもの ● 上り最大 : 200kbps ● 下り最大 : 200kbps

- ① データ通信量の目安は、以下の情報を参考にしてください。連続撮影機能を利用し、1日5時間、20日稼働すると、月に約28.8GB程度の通信量が発生します。

稼働時間 (時間)	通信量 (GB)																			
	稼働日数 (日)																			
1	0.3	0.6	0.9	1.2	1.4	1.7	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	3.7	4.0	4.3	4.6	4.9	5.2	5.5	5.8
2	0.6	1.2	1.7	2.3	2.9	3.5	4.0	4.6	5.2	5.8	6.3	6.9	7.5	8.1	8.6	9.2	9.8	10.4	10.9	11.5
3	0.9	1.7	2.6	3.5	4.3	5.2	6.0	6.9	7.8	8.6	9.5	10.4	11.2	12.1	13.0	13.8	14.7	15.6	16.4	17.3
4	1.2	2.3	3.5	4.6	5.8	6.9	8.1	9.2	10.4	11.5	12.7	13.8	15.0	16.1	17.3	18.4	19.6	20.7	21.9	23.0
5	1.4	2.9	4.3	5.8	7.2	8.6	10.1	11.5	13.0	14.4	15.8	17.3	18.7	20.2	21.6	23.0	24.5	25.9	27.4	28.8
6	1.7	3.5	5.2	6.9	8.6	10.4	12.1	13.8	15.6	17.3	19.0	20.7	22.5	24.2	25.9	27.6	29.4	31.1	32.8	34.6
7	2.0	4.0	6.0	8.1	10.1	12.1	14.1	16.1	18.1	20.2	22.2	24.2	26.2	28.2	30.2	32.3	34.3	36.3	38.3	40.3
8	2.3	4.6	6.9	9.2	11.5	13.8	16.1	18.4	20.7	23.0	25.3	27.6	30.0	32.3	34.6	36.9	39.2	41.5	43.8	46.1

1.4.スマートフォン設置車両の事前確認

スマートフォン設置対象車の設備確認を実施します。

1.4.1. スマートフォンを設置できる場所はあるか？

RoadManager はダッシュボードなどにスマートフォンを設置する必要があります。



図 1 スマートフォン設置例

基本的にはダッシュボード上にスマートフォンのマウンター・ホルダーを使って設置します。しかし、下記車種のSUV車など、エアバッグ動作時の安全性の懸念からダッシュボードに設置できない場合がありますのでご注意ください。

- 日産 エクストレイル等
- 三菱 パジェロ等
- トヨタ ハイラックスサーフ、ランドクルーザー等
- マツダ CX-5、CX-8等

i SUV 車へのスマートフォン設置について

- ① 上記車種などダッシュボードに設置できない、または設置できない可能性がある場合には、フロントガラスへの設置を検討してください。また、フロントガラスへの設置方法については、P. 29「4.3.2 フロントガラスに設置する場合」を参考にしてください。

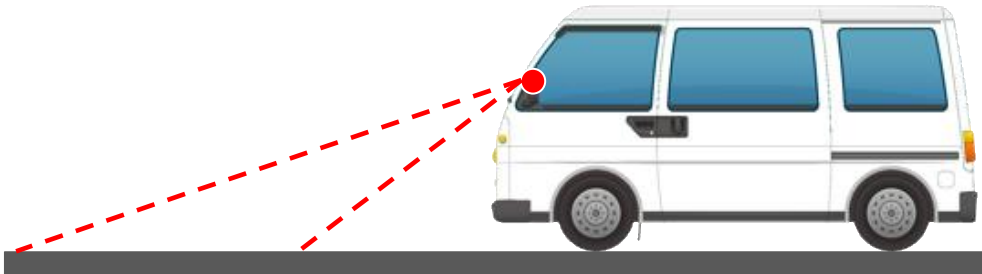
i 運用しやすい車種はありますか？

- ① 運用しやすい車と工夫が必要な車の違いには、以下の観点があります。

項目	運用しやすい車	工夫が必要な車
ボンネットの長さ	短い	長い
フロントガラスの角度	地面に対して直角に近い	地面に対して鋭角
ダッシュボード上の空間	空間に余裕がある	狭い
ダッシュボードの設置位置	高い	低い

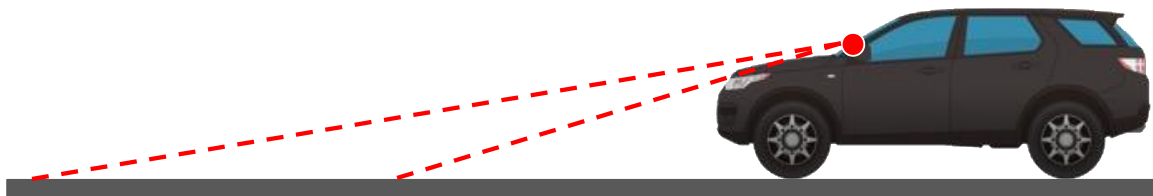
運用しやすい車

ボンネットが写り込まず、近くの路面をとらえられるので検知率が向上します。



工夫が必要な車

ボンネットの写り込みや近くの路面をとらえられないなどの原因で、検知率が低下する場合があります。



1.4.2. スマートフォンへの電源供給元があるか？

運用中は、スマートフォンの充電を断続的に行うことを推奨しています（スマートフォンのバッテリーでも一定時間運用できますが、長時間運用することができません）。

そのため、スマートフォンを充電するための設備が車内に整っているかをご確認ください。下記に、スマートフォンを充電できる設備の一例を示します。

- シガーソケット電源（DC12V）
- USB 電源



図 2 シガーソケット電源と USB 電源

① シガーソケット電源や USB 電源がない場合には

シガーソケット電源や USB 電源が備わっていない場合には、別途 USB 給電をできるようにするための工事が必要となります。当社では工事・施工ができませんので、対象車の販売店や自動車用品店にご相談の上、ご準備ください。

1.5.スマートフォン設置のための機材の準備

事前にスマートフォンを車両に設置するための機材を準備してください。ダッシュボードに設置する場合に適した機材と、フロントガラスに設置する場合に適した機材は異なりますので、設置箇所に合わせてご準備ください。

項番	必要な機材（※は必須）	概要・用途
①	スマートフォンホルダー （※）	スマートフォンをダッシュボードに設置・固定するために使用します。その車両、設置位置に合ったものを選定してください。
②	USB ケーブル（※）	スマートフォンを車内で充電するために使用します。使用するスマートフォンのコネクタ形状やシガーソケットから設置位置まで長さに合ったものを選定してください。
③	シガーソケット USB コネクタ	シガーソケットからスマートフォンに給電するために必要な変換コネクタです。車両に USB 給電のための装置がすでに設置されている場合は不要です。
④	吸盤サポート	吸盤タイプのスマートフォンホルダーの場合、ダッシュボードに固定しづらい場合があります。そのようなときは吸盤サポート板を設置するなど、対応してください。
⑤	二股シガーソケット	シガーソケットを二股に分ける機材です。車両のシガーソケットに、すでに他の機器が接続されている場合は、二股シガーソケットを使って、スマートフォンの充電用にソケットを確保してください。
⑥	スマートフォンホルダー （フロントガラス用）（※）	スマートフォンをフロントガラスに設置・固定するために使用します。その車両、設置位置に合ったものを選定してください。SUV などダッシュボードに設置できない車種については、フロントガラスへの設置を検討してください。

車内設置用セット



①スマートフォンホルダー



④吸盤サポート



⑥スマートフォンホルダー
(フロントガラス設置用)

(ダッシュボード設置の場合)

(フロントガラス設置の場合)



②USBケーブル



③シガーソケット
USBコネクタ

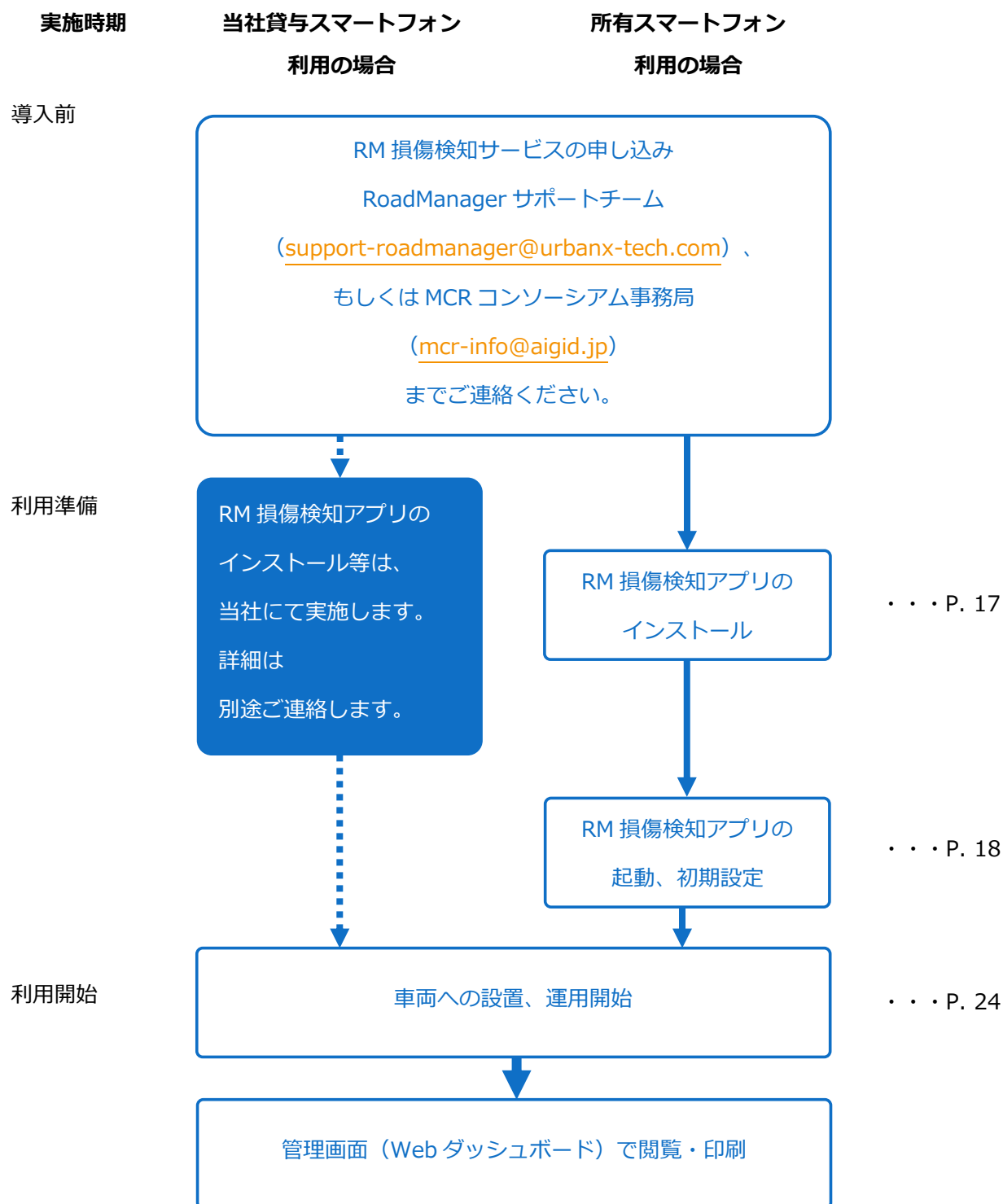


⑤二股シガーソケット

- ① スマートフォンを当社よりレンタルする場合には、ご自身でスマートフォンホルダー等を用意する必要はありません。
- ② スマートフォンレンタル時のスマートフォンホルダーの支給については、ダッシュボード設置の場合は「スマートフォンホルダーと吸盤サポート」、フロントガラス設置の場合は「フロントガラス設置用スマートフォンホルダー」を支給します。どちらか1セット支給する形となりますので予めご了承ください。

2. スマートフォン、RM 損傷検知アプリのセットアップの流れ

以下に RM 損傷検知アプリを利用するまでの流れを、簡単に示します。当社貸与スマートフォンを利用する場合と所有スマートフォンを利用される場合では、流れが異なりますのでご注意ください。



3. RM 損傷検知アプリのインストール・初期設定

▲ 初めて当社からスマートフォンをレンタルする場合は、RM 損傷検知アプリのインストール、初期設定が完了しています。そのため、本章に記載されている手順は、実施不要です。

① Android のバージョンや機種によって、操作方法や画面が異なる場合がございます。予めご了承ください。

3.1.RM 損傷検知アプリのインストール

まず、RM 損傷検知アプリをインストールします。下記で示す手順は、「Google Play ストア」からインストールする方法です。

- ▲ 当社からスマートフォンを初めてレンタルする場合は、RM 損傷検知アプリのインストール、初期設定が完了しています。そのため、本節に記載されている手順は、実施不要です。
- ▲ 当社からレンタルしているスマートフォンに MDM（モバイル端末管理システム）が導入されている場合には、ご自身でのインストールが不要である場合があります。ご不明点は RoadManager サポートチームまでご連絡ください。

1. 「Google Play ストア」アプリを開きます。



2. 検索欄に「rm 損傷検知」と入力・検索し、「RM 損傷検知」アプリを探します。アプリ名の横にある「インストール」ボタンを押します。



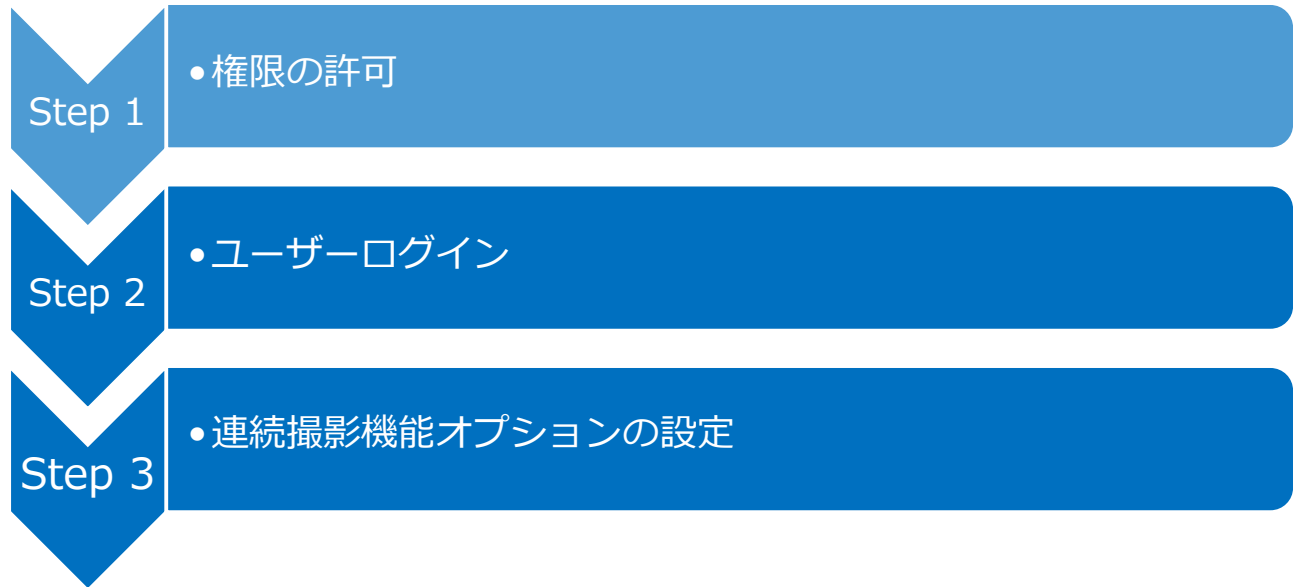
3. インストールが完了すると、「開く」ボタンが現れます。「開く」ボタンを押すと、RM 損傷検知アプリが立ち上がります。



3.2.RM 損傷検知アプリの初期設定

3.2.1. 初期設定作業の大まかな流れ

RM 損傷検知アプリの初期設定作業の流れは、以下のとおりです。



3.2.2. 権限の許可

⚠ 当社からスマートフォンをレンタルしている場合は、RM 損傷検知アプリのインストール、権限の許可設定が完了していることがあります。その場合は本節の対応は不要です。

1. 「RM 損傷検知」アプリを立ち上げます。



2. 以下のように各種権限許可の確認がされますので、すべて許可を押してください。

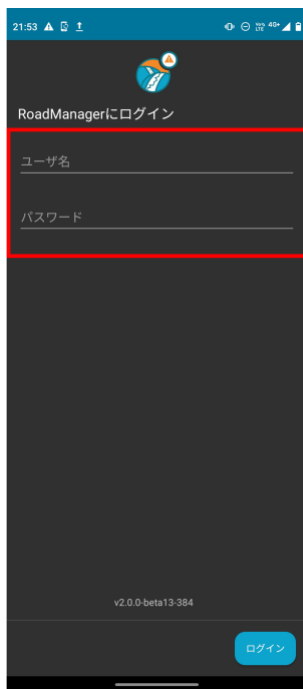


❶ 権限許可画面は一度選択すると、アプリ内では現れなくなります。もし、「許可しない」などを押してしまった場合には、Android 標準機能の「アプリ情報」画面にて、権限許可設定を変更してください。



3.2.3. ユーザーログイン

ユーザーログイン画面が現れるので、当社指定の**ユーザー名**、**パスワード**を入力し、ログインしてください。



スマートフォン ID の選択画面が現れますので、**対象のスマートフォン ID** を選択してください。



i 注意

▲ 選択ミスなどが発生した場合には、当社サポートチームまでご連絡ください。

Mail : support-roadmanager@urbanx-tech.com

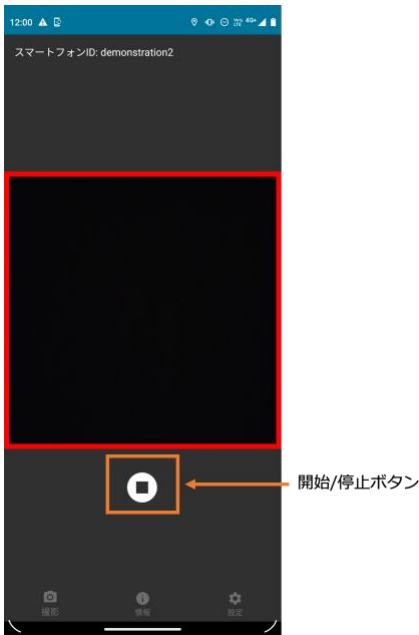
❶ ユーザー名、パスワード、スマートフォン ID は、「アカウントのお知らせ」資料に記載しております。ご不明の場合は、当社サポートチームまでご連絡ください。

Mail : support-roadmanager@urbanx-tech.com

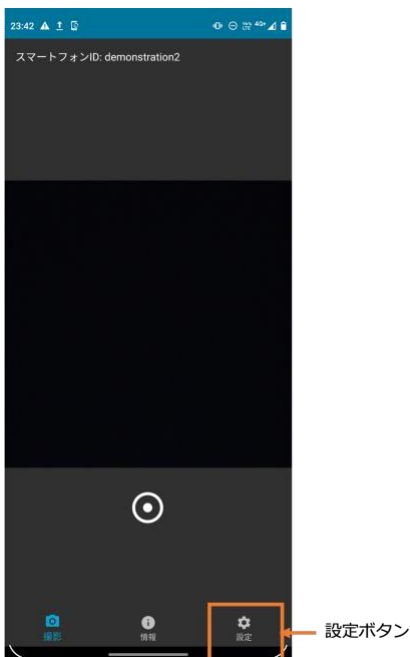
3.2.4. 連続撮影機能設定（連続撮影機能オプションを申込んだ場合）

- ▲ 連続撮影機能を利用するためには、RM 損傷検知アプリ上で「連続撮影機能」を ON にする必要があります。
- ▲ 連続撮影機能を利用する場合は、連続撮影機能オプションへの申し込みが必要です。詳しくは RoadManager サポートチームまでご連絡ください。

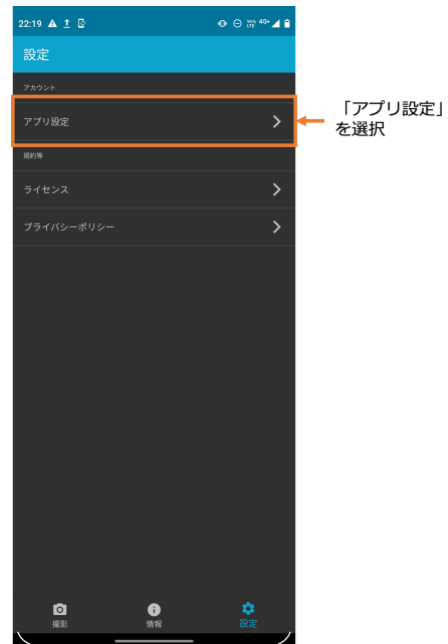
1. RM 損傷検知アプリを立ち上げます。稼働中の場合は「停止」ボタンを押して検知状態を停止します。



2. 「設定」を押します。



3. 設定画面が現れますので、「アプリ設定」を選択します。



4. 「連続撮影機能」を ON にして、「保存」ボタンを押してください。



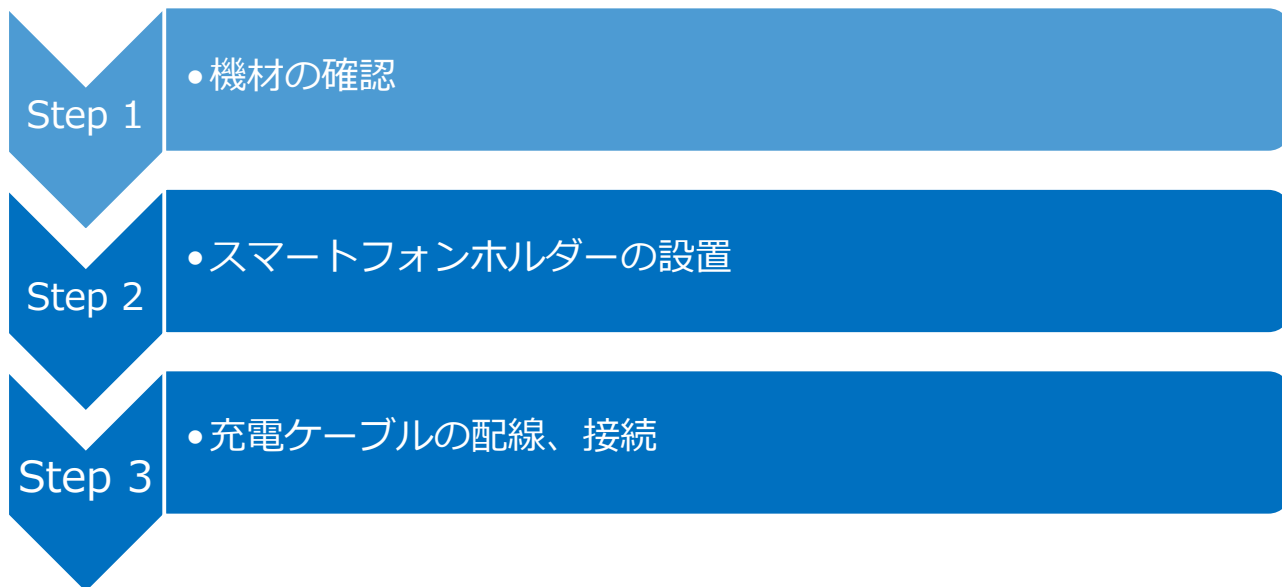
-
5. 「保存」ボタンを押すと、パスワード入力が必要になりますので、アカウントのパスワードを入力してください。
 6. 設定変更ができれば、しばらく走行したあと、RM 損傷検知の管理画面上の「巡回の連続画像」画面で、連続画像が閲覧できることを確認してください。

4. スマートフォンの車両への設置

4.1. 設置の大まかな流れ

スマートフォンのセットアップ完了後、実際に車両へ設置し、運用を開始します。

設置作業の大まかな流れは、以下のとおりです。



4.2. 機材の確認

まず、設置するための機材が揃っていることを確認します。当社から機材レンタルする際は、下記の物品を支給しております。



レンタルスマートフォン

室内充電用セット



⑦スマートフォン
充電ケーブル

車内設置用セット



①スマートフォンホルダー

(ダッシュボード設置の場合)

④吸盤サポート

⑥スマートフォンホルダー
(フロントガラス設置用)

(フロントガラス設置の場合)

②USBケーブル

③シガーソケット
USBコネクタ

⑤二股シガーソケット

ご自身で用意される場合には、P. 13 「スマートフォン設置のための機材の準備」を参考に機材をご準備ください。

- ① 機材レンタルされる場合のスマートフォンホルダーは、ダッシュボードに設置するタイプのもものとスマートフォンホルダーに設置するタイプのもの、どちらか一方を支給します。

4.3.スマートフォンホルダーの設置

スマートフォンホルダーを設置します。スマートフォンの設置は、下記2つのパターンがあります。

1. ダッシュボード上に設置する。
2. フロントガラスに設置する。

次にダッシュボード上に設置する場合の設置例を記載します。

△ 注意

スマートフォンなど機器の車両への設置は、道路運送車両の保安基準（※）で位置などの基準が定められています。

※https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_fr7_000007.html

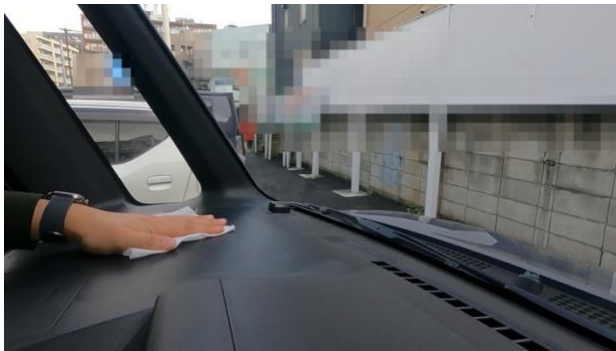
また、エアバッグが展開する場所に設置すると、エアバッグが展開した際に設置したものが放出され、乗員に危険が及ぶことも考えられますので、設置位置には十分ご注意ください。

4.3.1. ダッシュボード上に設置する場合

ダッシュボードに設置する場合の手順は、以下の通りです。



1. スマートフォンホルダーと吸盤サポート（補助板）を用意します。吸盤サポートは、スマートフォンホルダーの粘着が弱いときなど、安定しない場合に使用してください。



2. 設置する場所、及び角度を調整、決定します。このとき、吸盤の保護シールを剥がす必要はありません。

角度は、関節部分に調節用ネジがありますので緩めて、適切な角度になったら強く締めます。スマートフォンホルダーによっては角度の他に、柄の長さを調節できるものもあります。

3. 設置位置をアルコールシートや接着促進剤で拭いて、綺麗にします。

4. スマートフォンホルダーのシリコンに付いている保護シールを剥がして、ダッシュボードに取り付けます。このとき、ロックレバーをしっかりと下げるようにしてください。



5. RM 損傷検知アプリを立ち上げ、画角を見ながら路面がよく写るようにスマートフォンホルダーを調整します。

4.3.2. フロントガラスに設置する場合

フロントガラスに設置する場合の手順は、以下の通りです。



1. スマートフォンホルダーを用意します。



2. 設置位置をアルコールシートや接着促進剤で拭いて、綺麗にします。

設置位置について：可能な限り、水滴などが残りにくい場所に設置します。フロントガラス上部へ設置する場合には、実長で上部から 20%以内に収める必要があります。詳しくは「道路運送車両の保安基準」をよ
くご確認ください。

https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_fr7_000007.html



3. スマートフォンホルダーのシリコンに付いている保護シールを剥がして、フロントガラスに取り付けます。このとき、ロックレバーをしっかりと下げるようにしてください。



4. スマートフォンホルダーの関節ネジを緩めて角度を調節し、スマートフォンが路面を撮影できる画角になるよう調整します。ある程度、調整ができれば一度仮締めします。

① 当社からレンタルしているフロントガラス設置用のスマートフォンホルダーは、2箇所の関節があり、それぞれ上下左右に動かせるようになっています。



5. スマートフォンホルダーの固定部のネジを緩めてスマートフォンを設置します。このとき、スマートフォン側面の電源ボタンや音量ボタンを挟まないようにしてください。



- 最後に RM 損傷検知アプリを立ち上げて、画角を確認し、問題なければ各関節ネジを増し締めします。

4.4. 充電ケーブルの配線、接続

スマートフォンホルダーの設置が完了したら、スマートフォンを充電するケーブルの配線、接続を行います。RM 損傷検知アプリが動作しているスマートフォンは、バッテリーを大きく消費するため、常時給電することをおすすめします。

充電ケーブルの配線、接続方法は、以下の通りです。



1. シガーソケット USB コネクタ、二股シガーソケット、USB ケーブルがあることを確認します。



2. 車両にシガーソケット差込口があることを確認し、二股シガーソケット、またはシガーソケット USB コネクタを差し込みます。

❗ 車両のシガーソケットに、すでに他の機器が接続されている場合は、二股シガーソケットを使って、スマートフォンの充電用にソケットを確保してください。



3. シガーソケット USB コネクタに USB ケーブルを差し込みます。



4. USB ケーブルをスマートフォンに差し込みます。



5. ケーブルクリップ等で邪魔にならない場所にケーブルを固定します。

4.5. 最終確認、画角の調整

設置、配線が完了したら、実際にエンジンをかけてスマートフォンが充電されていることを確認してください。また、ご検知を可能な限り少なくするため、運用前に画角のチェックをお願いします。下記に良い画角の例と調整したほうがよい画角の例を掲載しますので、画角調整の参考にしてください。

4.5.1. 良い画角の例



計測エリアの全体で路面部分をとらえ、下半分側に路面がしっかり写っています。



ボンネットが前方に長いため、計測エリアに写ってしまっています。しかし、路面もしっかり写っているため、検知可能です。

4.5.2. 調整したほうがよい画角の例



ダッシュボード、フロントガラス側のエアコン吹き出し口が写ってしまい、ポットホールやマンホールと誤検知発生の可能性が高くなります。



計測エリア下部にダッシュボードが大きく写ってしまい、誤検知や検知漏れ発生の可能性が高くなります。

5. RM 損傷検知アプリの運用

スマートフォンや RM 損傷検知アプリの日々の運用に必要な操作や手順を次に記載します。

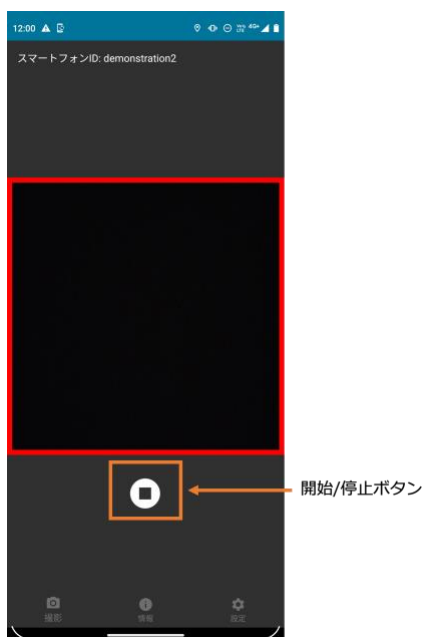
5.1. RM 損傷検知アプリの立ち上げ・日々の運用開始

車両へのスマートフォンの設置が完了したら、RM 損傷検知アプリを立ち上げます。手順は以下のとおりです。

1. RM 損傷検知アプリを立ち上げます。



2. 自動的に検知が始まります。停止したいときは「開始/停止ボタン」を押します。



① 計測エリアを示す枠が赤色の場合、「稼働中」を示します。枠がない場合、「停止中」を示します。

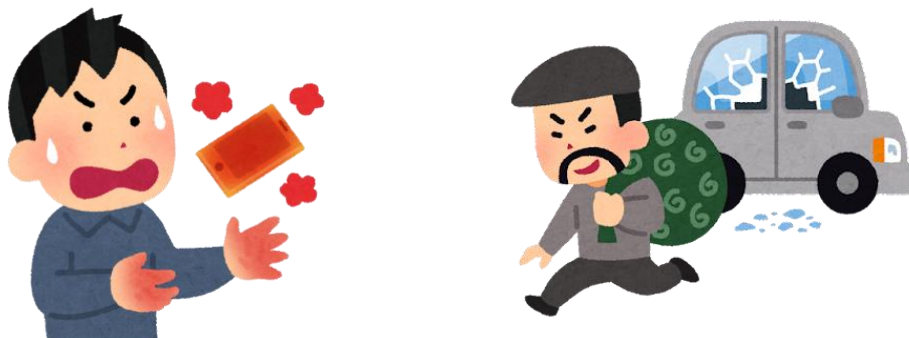
① ユーザー名、パスワードの入力等求められた場合には、P. 18「RM 損傷検知アプリの初期設定」のとおり初期設定をやり直してください。

⚠ 警告

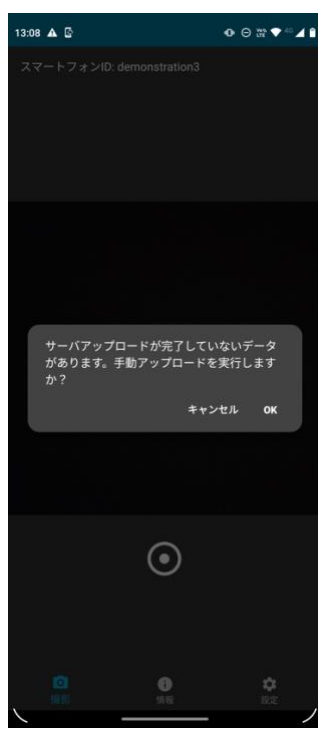
スマートフォンは、車内に放置すると50℃～60℃程度の高温にさらされることになり、故障やアプリの誤作動の原因になります。10分以上、車内を離れる際はスマートフォンを携帯してください。

5.2. 日々の運用終了

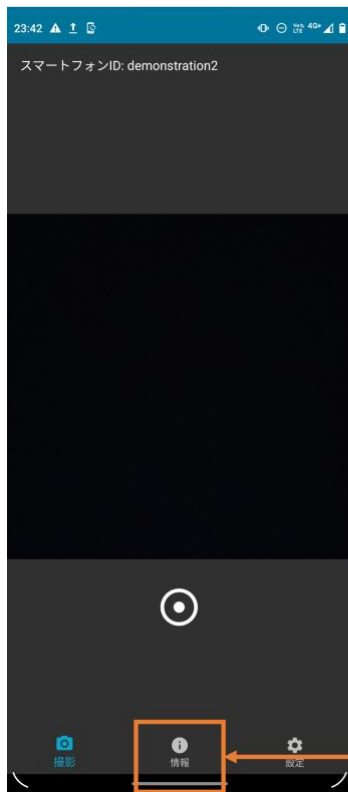
運用が終わったら、RM 損傷検知アプリの「開始/停止ボタン」を押して停止し、アプリを閉じます。スマートフォンは、盗難防止などセキュリティやスマートフォンの劣化防止の観点から事務所等へ持ち帰り、保管、充電してください。



また、RM 損傷検知アプリでの撮影停止後に「サーバアップロードが完了していないデータがあります。手動アップロードを実行しますか？」とダイアログが表示される場合があります。このとき、サーバーへアップロードされていない損傷データが端末内に残っている可能性があるため、「OK」を押して手動でアップロードしてください。



- ① 損傷データの手動アップロードは「情報」からも実施することができます。アップロードに失敗した場合や手動でアップロードしたい場合には、「情報」ボタンを押して画面を切り替え、「手動アップロード」ボタンを押してください。



6. RM 損傷検知アプリのアップデート

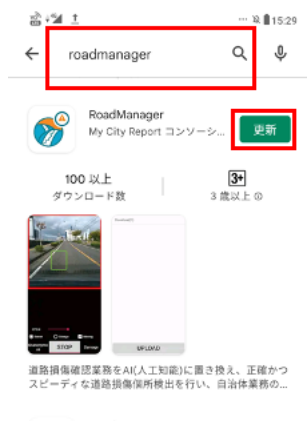
RM 損傷検知アプリは、新しいバージョンがリリースされるとアップデート作業が必要となります。アップデートすることにより、新しい機能や不具合の修正などが適用されます。

- ❶ 当社から貸与している端末については、MDM（モバイル端末管理）システムにより、自動的にアップデートされるため、基本的には対応不要です。必要に応じて、操作いただくことがありますが、その場合は当社より予めご連絡差し上げます。

1. 「Google Play ストア」アプリを開きます。



2. 検索欄に「rm 損傷検知」と入力・検索し、RM 損傷検知アプリを探します。アプリ名の横にある「更新」ボタンを押します。



3. インストールが完了すると、「開く」ボタンが現れます。「開く」ボタンを押すと、RM 損傷検知アプリが立ち上がります。



4. 正常にアップデートできている場合は、RM 損傷検知アプリを立ち上げるとユーザー認証が自動的に行われ、スマートフォン ID の情報も記憶された状態となります。そのため、ログイン操作などは特に必要ありません。ユーザー名、パスワード入力画面が出てきた場合には、P. 18「RM 損傷検知アプリの初期設定」を参考に再度設定してください。

❶ 保留中となったままインストールが進まない場合には

下記事項をご確認、お試しください。

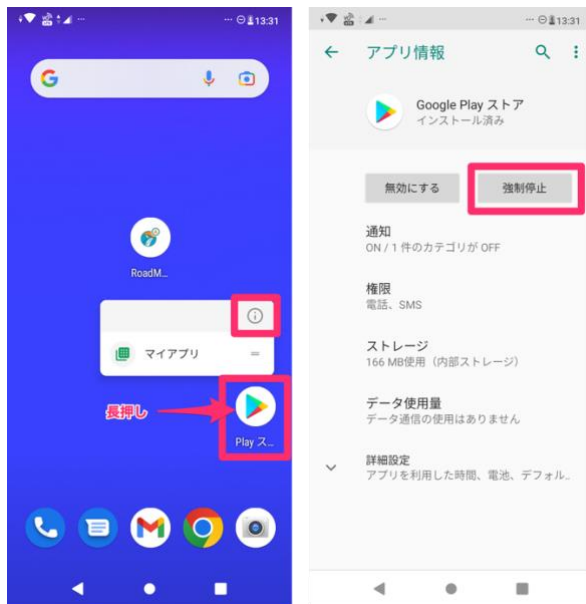
① 「提供不明元のアプリ」のインストールを許可する。

「設定」アプリを開き、検索欄などで「不明なアプリのインストール」項目を探し、RM 損傷検知アプリの「この提供元のアプリを許可」を ON にしてください。



② ダウンロードを停止して、一度 Google Play ストアアプリを強制停止し、再起動する。

Google Play アプリのアイコンを長押ししてアプリ情報を開き、強制停止してください。



③ インターネットの接続状況を確認する。

④ スマートフォン端末を再起動する。

⑤ ダウンロードマネージャーアプリや Google Play ストアアプリのキャッシュを削除する。

下記ホームページも参考にしてください。

<https://support.google.com/googleplay/answer/7513003>

7. 「おかしいな」と思ったら

項番	このようなときは…	ここをお調べください
1	RM 損傷検知アプリがインストールできない。	使用している端末が P. 8「1.3. デバイス（スマートフォン）の準備」に記載されているスペックを満たしているかご確認ください。
2	スマートフォン ID の設定や連続撮影機能の設定画面に遷移できない。	RM 損傷検知アプリが「停止中」であるか確認してください。手順は P. 18「3.2. RM 損傷検知アプリの初期設定」をご覧ください。
3	通信エラーが発生する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. スマートフォンが「機内モード」になっていないか、ご確認ください。 2. モバイル通信が正常に行われているか、ご確認ください。 3. 通信環境の悪い場所で実施していないか、ご確認ください。
4	損傷データが管理画面上に現れない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指定した対象期間において、RM 損傷検知アプリを運用していたかをご確認ください。 2. RM 損傷検知アプリを立ち上げたときに、通信エラーが発生していないかご確認ください。通信エラーが発生していた場合は、上記「通信エラーが発生する。」の項をご確認ください。
5	メインメニューに「巡回の連続画像」画面で、連続撮影画像が表示されない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「連続撮影機能」及び「手動撮影機能」は、別途利用申込が必要なオプション機能です。利用申込が完了しているか、ご確認ください。 2. RM 損傷検知アプリ上の設定で、「連続撮影機能」の設定が完了していることを確認してください。手順は P. 22「3.2.4. 連続撮影機能設定（連続撮影機能オプションを申込んだ場合）」をご覧ください。
6	RM 損傷検知アプリのアップデートができない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当社よりレンタルされた端末の場合、当社にてアップデートの管理をしていますので、ユーザーで手動アップデートすることはできません。 2. それ以外の端末の場合は、P. 38「6. RM 損傷検知アプリのアップデート」を参考にやり直してみてください。

8. よくある質問

Q1.スマートフォンは所有のものを利用しても問題ありませんでしょうか？

A1. 問題ありません。但し、P. 8「1.3. デバイス（スマートフォン）の準備」に記載の最低動作環境を満たしている必要があります。

Q2.スマートフォンについて、車両に設置したままでも問題ありませんでしょうか？

A2. 日々の運用終了後は、盗難防止などセキュリティやスマートフォンの劣化防止の観点から事務所等へ持ち帰り、保管、充電してください。また、10分以上車両から離れる際も、スマートフォンを携帯していただきますよう、お願いいたします。

- ① ヘルプサイトには、上記のほかにも解決策や操作方法を掲載しています。

<https://help.roadmanager.jp/>

9. MEMO



株式会社 アーバンエックステクノロジーズ

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-12-2

クロスオフィス渋谷 706

Mail (RoadManager サポートチーム) : support-roadmanager@urbanx-tech.com

<https://roadmanager.jp/>

<https://www.urbanx-tech.com/>